

07 成長支援事業



ボランティア団体の発信力UP支援事業

特定非営利活動法人森ノオト

活動

社会に伝える広報と、 組織を強くする広報

「パブリックリレーションズ・サポート・プログラム」として、最終アウトカムを「市民活動が楽しいという空気が満ち、市民による活動がイキイキとなされている社会」と定め、ボランティア団体の広報力が高まることで、社会に対して実感と喜びをもってやるべき広報に邁進できている状態を目指すための支援を行いました。

7月に全10団体の個別ヒアリングを行い、その後、2回の全体研修で「社会的インパクト」や「プロに学ぶ広報術」を学び、4回の個別支援を実施しました。2月の成果報告会までに、広報課題がどこにあり、発信力を高めるために今何が足りないか、チェックリストを用いて支援開始前と終了後で比較を行い、具体的な成果を指標で確認することができたことは、団体にとっても達成感につながりました。2月の成果報告会で10団体がそれぞれ取り組んだ成果を発表しました。

Check !



<事業基本データ>

実施期間 2023 年度

委託料 計 5,000 千円



▲ 全体講師による研修

▼ 個別支援の様子



成果

広報スキルをつけ 発信力アップ

全 10 団体に対して4回の個別支援に出向き、個別の悩みに応じたオリジナルのプログラムを作成して支援しました。

- ・団体のビジョン、ミッションの言語化のためのワークショップ
- ・受益者について知るための「顧客の旅」「ペルソナインタビュー」
- ・各 SNS のインサイトの見方、分析講座
- ・効果的なチラシ作成講座
- ・動画制作のコツを学ぶ講座
- ・クラウドファンディングのためのキャッチコピー講座

団体内外から約 50 人が参加した成果報告会では、「広報は“宣伝”だと思っていたが、大切な関係者に活動を伝えていくことだという原点がわかった」、「自分たちが、社会に対してどのような意義をもっているかを再認識できた」などの声が聞かれ、「10 団体の成果は、他の団体にとってもいつ

か直面する課題への答えとなる可能性もある。成果発表会の場で、それぞれの課題と解決までの道筋が共有されたことは大変貴重だった」と、アドバイザーから講評をいただきました。



▲ 全体研修の様子

★ 参加団体の声 ★

- ・広報が単なる宣伝の媒体ではなく、事業そのものであることを認識でき、迷いがなくなった。
- ・団体のビジョン・ミッションを言語化し、メンバーで共有できたことで、適切に自団体の社会的意義を PR できるように。念願だった「ヨコハマ市民まち普請事業」に満票で採択された。



担当者の
コメント

理事長
北原 まどか さん

森ノオトが今回行ってきた支援は、テクニックだけを伝授するような表層的な広報改善ではありません。各団体が組織の現在地を見つめ、課題を洗い出し、広報体制を見直し、団体の価値の見える化・言語化を徹底して、団体の基盤強化をしていくという、組織そのものの根幹に深く関わる支援を行うことができました。



特定非営利活動法人
森ノオト

代表者 理事長 北原 まどか

設立 2013 年 1 月

住所 〒 227-0033
横浜市青葉区鴨志田町 818-3

活動紹介 ローカルメディア「森ノオト」の運営と市民ライターの育成から、ボランティア団体の広報支援、持続可能なまちづくり事業、布や手芸資材の資源循環「めぐる布市」など。



08 奨励賞

地域福祉で求められるニーズとインフォーマル活動

ケアラズカフェ モンステラ



▲ 高齢者の居場所づくり（ランチの様子）



▲ 県立相模原支援学校人権研修会
教職員向け（ヤングケアラー）

実績

自身が長年の介護によるうつ病を経験したことから、2016年に自宅を【住み開き】で地域の居場所として開放しました。

2年後、介護に疲れたケアラーの傾聴と心に寄り添うため、ケアラズカフェも始めました。

近年、「ケアラー・ヤングケアラー」の周知・講演活動にも力を注いでいます。

高齢者・子育て世代の社会処方として、孤独を避けるための共食を月8回開催しています。

ケアラー・高齢者のための学び、クリスマス会や市のボランティアイベントに参加しました。

受賞後も新たな地域ニーズに応じた取り組みを行っています。

任意
団体

ケアラズカフェ
モンステラ

代表者 代表理事 山田 由美子

設立 2016年 11月

住所 相模原市南区

09 奨励賞

女性を中心とした精神障害者の セルフヘルプ・グループ活動での支え合い レインボーキャリア会



精神疾患・障害者のセルフヘルプグループ

レインボーキャリア会

レインボーキャリア会横浜・座間（女性限定メンタルヘルスケアワークショップ）

女性同士でメンタルヘルスケアを学びながら、女性特有の悩みや経験を分かち合う場です。

DAY-to-DAY 座間（男女混合ピアサポートグループ）

男女混合でメンタルヘルス不調からの回復方法や社会福祉制度のことなど学び、情報交換をする場です。

ピアサポーター勉強会横浜・座間

ピアサポーターになりたい人のために、セルフヘルプグループの運営と進行方法や、ピアカウンセリングの勉強をしています。

レインボーキャリア会は、3つのイベント以外にもイベントを企画運営しています。会についての参加方法など興味・関心がある方はお問い合わせください。

- お問い合わせ先 宛先 レインボーキャリア会 まえはる
- メールアドレス : inforainbowcareers@gmail.com
- 公式ライン : @465omno
- Ameba ブログ : <https://ameblo.jp/rayon2/>

▲ 案内のチラシ

セルフヘルプ・グループとは、疾病や障害、依存症、精神障害、犯罪被害や遺族など、様々な生きづらさ、共通の問題を感じる方々が自主的につながり、共感の中で悩みを打ち明けたり、問題解決のために経験や情報を分かち合い、相談活動や社会に理解を広める活動を行うグループです。

実績

女性の精神障害者のセルフヘルプ・グループです。似たような生きづらさを持つ人たちが、抱えている悩みや不安を安心して語り合い、分かち合うことのできる安全な場を提供しており、当事者同士の支え合いの場となっています。

女性ならではの悩みを話せる場としてのスタートから、ピアカウンセリングのための傾聴技術を学ぶピアサポーター勉強会、男性も参加可能な男女混合ピアサポートグループ「DAY-to-DAY」を始めるなど、活動の幅やエリアが広がっています。

任意
団体

レインボーキャリア会

代表者 代表 前田 暖子

設立 2011年 4月

住所 座間市

10 奨励賞

「病気を持つ子どもも地域の中で自立できる環境を創る」の実現を目指した活動を実施

特定非営利活動法人 Small Step



▲ Universal Melodies ～子どもも大人も
みんなで歌う音楽会の様子



▲ すもーるすてっぷ保育園、保育の様子

実績

子供は成長段階に応じて、主な居場所もおうち
→保育園 / 幼稚園→小学校→中学校→高等学校・
大学→就業先に変化していきます。

その段階の変化は、医療的ケアを含む障害を持つ子には高いステップとなります。ステップを低くする支援を行う活動を通じて、「皆と同じように過ごしたい」と願う子供たちが、地域の中で自立できればと考えています。

具体的には、保育園事業や、他の様々な団体との連携による園や学校生活のサポート事業、イベント等の提供事業を行っています。

NPO
法人

特定非営利活動法人
Small Step

代表者 代表理事 赤荻 聡子

設立 2017年 8月

住所 横浜市南区榎町二丁目 60-4



11 奨励賞

リトルベビーと家族が笑顔で過ごせる 社会を目指した家族会の活動

NPO 法人 pena（旧かながわりトルベビーサークル pena）



▲写真展の様子
（731 g で生まれ、4 歳になった女の子）



▲絵本の読み聞かせ交流会の様子

実績

「Each Story, One Future」をビジョンに、2,500g 未満で生まれた低出生体重児（リトルベビー）とご家族の孤立を防ぐための交流会や、母子手帳を補完する「リトルベビーハンドブック」の普及や地域との繋がりを深めるための写真展等を開催しています。

支援や制度の狭間で生き難さを感じるご家族が少なくなるように、当事者の声を届け、地域の一員として共に未来が築ける社会の実現を目指し活動をしています。

NPO
法人

NPO 法人 pena
（旧かながわりトルベビーサークル pena）

代 表 者 理事長 坂上 彩

設 立 2021 年 7 月(NPO 設立 2024 年 4 月)

住 所 平塚市明石町 21-31-1702

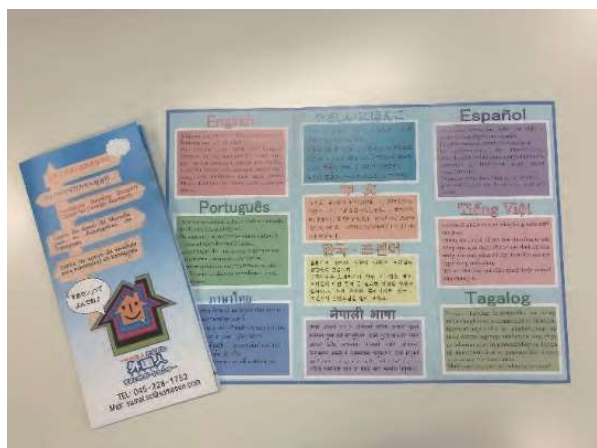


12 奨励賞

ともに生きる地域をめざして ～外国人のすまいと生活を支えて～ 特定非営利活動法人かながわ外国人すまいサポートセンター



▲相談の様子



▲団体リーフレット

実績

かながわ外国人すまいサポートセンターは、20年以上にわたり神奈川県で在日外国人の居住支援に特化した活動が続けてきました。

外国人の「日本で普通に生活する」という権利の実現のために、行政機関や国際交流協会、不動産業界団体、自治体の居住支援協議会や民族団体、NPOなどと連携しています。

多言語による相談窓口を開設し、すまいや生活に関する支援、生活に関する情報提供や同行支援も行っています。また、外国人の居住支援に関する研修事業なども積極的に実施し、多文化共生の社会づくりに取り組んでいます。



特定非営利活動法人
かながわ外国人すまい
サポートセンター

代表者 理事長 裴 安 (ペイ アン)

設立 2001 年 3 月

住所 横浜市中区常盤町 1-7
横浜 YMCA 2 階